

学習のための、 学習としての評価

— PBLとMOOCにおける学習評価の可能性 —

Assessment for and as Learning:

Possibilities of Learning Assessment in Project- and Problem-Based Learning and MOOC

「アクティブラーニングや深い学びを支援するよう授業をデザインしてみたが、その学習成果をどう評価すればよいかわからない。そもそも評価する必要があるのだろうか。」そんなふうに感じておられる教員は少なくないのではないのでしょうか。

京都大学高等教育研究開発推進センターでは、今年も、ハーバード大学のエリック・マズール教授をお招きしてシンポジウムを開催します。今回は、PBL(プロジェクト型学習と問題基盤型学習)とMOOCの実践を事例に、その学習成果を把握するための学習評価のあり方をさぐります。

ピア・インストラクションで世界的に知られるマズール教授が現在最も関心を注いでおられるのが、学習評価です。マズール教授の手にかかると、学習評価の新しい世界が見えてきます。今回はハーバード大学でのプロジェクト型学習の評価を中心にご報告いただきます。センターからは、MOOCでのピア・アセスメント、問題基盤型学習におけるパフォーマンス評価について報告し、現在の学習評価の到達点と課題を明らかにします。

わが国のMOOC研究・実践の第一人者である本センター長飯吉透とのMOOCをめぐる議論も必見です。

2014年10月8日(水)

14:00~17:30(受付13:30~)

京都大学 芝蘭会館 山内ホール

定員60名(先着順)

参加費無料

同時通訳あり

申込方法: 下記URLよりお申込み下さい

http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/apply_form/20141008WorkShop/mail_form/mail_form.html



Prof. Eric Mazur

ハーバード大学教授(物理学・応用物理学)。同大学応用物理学科長。専門の光物性の研究と並んで、教育研究でも国際的に知られる。大規模講義における双方向的な教授法として開発されたピア・インストラクション(Peer Instruction)は、現在では世界各地で実践されている。また、2012年度からは、PBL(プロジェクト型学習)にも積極的に取り組み、成果をあげている。2011年には、Dr. Brian Lukoff、Prof. Gary Kingとともにクリッカーの進化形であるLearning Catalytics™を開発し、教育テクノロジーの新局面を切り開いた。著書に、Peer Instruction: A User's Manual (1997)、共著書にPeer Instruction: Making Science Engaging (2006)、Using JiTT with Peer Instruction (2009) など。

学習のための、学習としての評価

— PBLとMOOCにおける学習評価の可能性 —

タイムテーブル

14:00 開会挨拶 喜多 一 (京都大学国際高等教育院 副教育院長)
司会: 溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)

14:05 講演 エリック・マズール (ハーバード大学 教授)
「学習の評価から、学習のための評価へ」
“Assessment for (not of) Learning”

優秀な学生でも仕事の世界ではうまくいかず、逆にドロップアウトした学生でも成功することがあるのはなぜだろうか？ 今日の評価実践の多くがオーセンティックではない、というのがその一つの理由である。講義が学生への情報伝達に焦点をあわせているのと同様に、評価は往々にして、その情報を教員に向かっておうむ返しに言わせることに焦点をあわせている。そのために、評価は21世紀の生活に関連性のあるスキルに焦点をあわせるのに失敗しているのである。評価は、「隠れたカリキュラム」と呼ばれてきた。学生の学習習慣にとって重要な駆動力になるからだ。教育を意味ある形で変革しようとするれば、評価へのアプローチを再考することが不可欠なのである。

(For English summary, see <http://mazur.harvard.edu/search-talks.php?function=display&rowid=2317>)

15:30 休憩

15:45 報告 飯吉 透 (京都大学高等教育研究開発推進センター センター長)
「MOOCの進化と学習評価」
“Evolution of MOOC and Learning Assessment”
松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター 教授)
「学習としての評価—PBL(問題基盤型学習)におけるパフォーマンス評価—」
“Assessment as Learning: Performance Assessment in Problem-Based Learning”

16:20 パネルディスカッション
パネリスト: エリック・マズール、飯吉 透、松下 佳代

17:20 閉会挨拶 飯吉 透

アクセス

京都大学芝蘭会館山内ホール (〒606-8317 京都府京都市左京区吉田近衛町)

京都市バス

JR京都駅より市バスD2のりば (206号)

阪急河原町駅、京阪祇園四条駅より (201号、31号)

いずれも京大正門前下車徒歩約2分

京阪電車

出町柳駅より徒歩約15分



問い合わせ先: 京都大学高等教育研究開発推進センター事務局 (550center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)

主催: 京都大学高等教育研究開発推進センター

協賛: 学校法人河合塾教育研究開発本部、関西地区FD連絡協議会